

■土井利忠 越前国大野藩主。財政、産業、教育、医術、軍制の開明的藩政改革、蝦夷地の開拓も先駆し、盛名を馳せた。

どうとただ

ポロリン拿捕 1811 = 江戸目白台の下屋敷で、大野藩5代藩主土井利義の子に生まれる。

水野忠成老中 1818 = 7歳 : 6代利器のあとをうけて7代藩主となったが、幼少のため宗家の下総国古河藩主土井利位が後見人となる。

..... 1820 = 9歳 :

日本外史・・ 1827 = 16歳 : 従五位下能登守に叙任。

シボト追放・ 1829 = 18歳 : はじめて大野に入部。

累年の藩債が山積し藩政も沈滞していたため、

大塩平八郎乱 1837 = 26歳 :

適塾ホブソンの 1838 = 27歳 :

蚕社の獄・・ 1839 = 28歳 : 内山七郎右衛門良休を銅山用掛頭取に抜擢し、

勅進帳初演・ 1840 = 29歳 : 家老になった中村重助の助けを得て、

天保改革弾圧 1842 = 31歳 : \*藩政改革に着手、年寄から目付以下までの多くの役人を更迭するとともに、人材を登用し始め、まず、内山七郎右衛門良休を産物方御用掛にする。

天保改革終・ 1844 = 33歳 : \*人材育成のための教育の振興を図るべく、藩校明倫館を開設、

阿部正弘首座 1845 = 34歳 :

..... 1847 = 36歳 :

この間、内山七郎右衛門良休により、面谷鉦山の経営、生糸・絹織物など領内産物の増産に努めた結果、負債の完済に成功すると、

ペリー来航・ 1853 = 42歳 :

安政大地震・ 1855 = 44歳 : \*内山七郎右衛門良休が、藩債返還の方法は“商”のほかはないと進言して、大坂に藩店(大野屋)の開設。蘭学館を開設。幕府が蝦夷地を直轄として開拓希望を募ったのに対し、藩士一同と相談の上、応募、  
松下村塾・・ 1856 = 45歳 : 前年、大坂に派遣した内山隆佐によって、適塾の塾頭を高禄で迎えて、明倫館に洋学館を付設。洋書の翻訳刊行、医術の普及では済生病院の新築、種痘の実施、軍制の改革では小銃の製造、洋式砲術の採用を行う一方、内山七郎右衛門良休に年寄と蝦夷地用掛を兼任させ、隆佐を蝦夷地総督に任じ、調査報告を得たが、幕府自身に開拓への魅力を喚起させる結果となり、許可が下りず、隆佐らは帰藩。

蕃書調所・・ 1857 = 46歳 : そこで、北蝦夷に着目、箱館奉行所に強硬に願い出、

五ヶ国条約・ 1858 = 47歳 : ようやく、幕府の許可が下り、大野屋商品の輸送のための藩船(大野丸)の建造を行なう。

桜田門外変・ 1860 = 49歳 : 急に江戸城に呼ばれ、北蝦夷を藩領と見なし、自由に経営して良いとの許可を下されたが、

生麦事件・・ 1862 = 51歳 : \*致仕し、

薩摩藩士密航 1865 = 54歳 :

明治維新・・ 1868 = 57歳 : 没した。